

学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

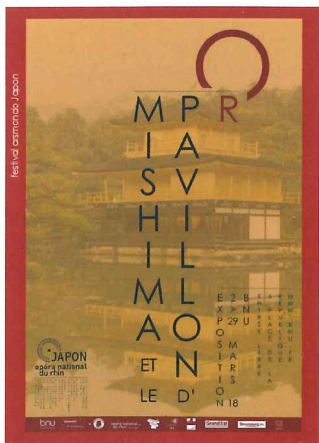
Museum Letter No.39

発行日 ● 平成30年(2018)10月22日

もくじ

- ごあいさつ・「三島由紀夫と『金閣寺』」展開催に寄せて…………… 1
 ストラスブールの三島由紀夫展…………… 2～3
 〈三島由紀夫〉の水端一学習院での日々・お知らせ…………… 4

- ・展示「三島由紀夫と『金閣寺』」平成30年(2018)3月2日～29日
- ・オペラ「金閣寺」平成30年(2018)3月21、24、27、29日、4月3日



昭和16年(1941)学習院中等科5年西組
 集合写真 2列目左:平岡公威(三島由紀夫)
 「訓育部写真帖」(学習院アーカイブズ蔵)

「三島由紀夫と『金閣寺』」展ポスター

ごあいさつ

学習院大学史料館では、平成28年(2016)の秋にパリ日本文化会館とストラスブール大学図書館で「辻邦生―パリの隠者」展を開催しました。その縁はもとより山中湖村の三島由紀夫文学館館長・佐藤秀明氏のお声がけもあって、「Arsmondo Japon」というストラスブール挙げてのフェスティバルの一環として、ストラスブール国立・大学図書館で平成30年(2018)3月に催された文学展「三島由紀夫と『金閣寺』」に、史料館所蔵の坊城俊民宛て三島由紀夫書簡を学芸員が日本から持参し展示いたしました。

本年はくしくも日仏友好160周年に相当し、9月には皇太子徳仁親王殿下が国際親善のためフランスを訪問されました。記念すべき年に日仏文化交流の一翼をささやかに担えて、史料館としてとても光栄に思っています。アルザス地方の古趣豊かな町・ストラスブールに2度も往復する機会に恵まれた学芸員は、国立・大学図書館で優雅な展示方式を研鑽しそれに文化的接遇の様式美をレセプション等で学んでまいりました。

あらためて館長として、矢崎家、渡邊家の方々をはじめ、キュレーターや展示実務を担当された方々、および関係各位のご協力・厚意に感謝申し上げます。

(史料館長・坂本孝治郎)

「三島由紀夫と『金閣寺』」展開催に寄せて

ストラスブール大学では、日本語コースが30年前に始まり、現在は350人程度の学生が日本語を主専攻にしています。ストラスブールは、文化施設やイベントに恵まれているフランス首都パリから離れていることもあり、私たち教員は、できるかぎり、大学生たちとストラスブール市民が日本文化に接する機会を作るように心がけています。

抑も、2016年の秋に、ストラスブール大学に「辻邦生―パリの隠者」展をお迎えした場で、学習院大学史料館に保管される資料の豊かさを知り、史料館にある三島由紀夫関連資料を活かして、いつか三島に関する展示会も実施できたらと思いました。またその翌年の2017年、ストラスブール・オペラ座長のエヴァ・クライニッツ氏より話をいただくという偶然もありました。それは2018年3月に『金閣寺』オペラ版の上演に合わせて、社会貢献と文化普及のために、本学日本研究学科と国立・大学図書館との協力で、同作品をより深く理解させる企画ができないか、という相談でした。座長のカリスマに惹かれ、展示と講演会の企画で参加することにし、キュレーターの仕事を本学と縁があった当時オックスフォード大学研究員(現パリ・デイドロ大学准教授)トマ・ガルサン氏に、監修を三島由紀夫文学館館長である佐藤秀明氏にお願いしました。

出展の資料は一切、学習院大学史料館と三島由紀夫文学館の両館から貸していただいたので、両館の限らない協力を得なければ、展示は実現できませんでした。深く感謝しています。来館者も多かったのですが、何より嬉しかったのは、展示を見た人たちのよき反応でした。今回の展示により、フランスにおける三島由紀夫へのイメージが大きく刷新されたに違いありません。

(エヴリン・ルシーニュ=オドリ/Evelyne LESIGNE-AUDOLY
 ストラスブール大学准教授)